

# 執筆要領(旧)

原稿は和文で横書き口語体とする。漢字の使用は、専門用語を除き、できるだけ常用漢字に限る。文章の区切りはコンマ(,)と句点(.)にする。原稿には A4 判縦用紙を用い、ワードプロセッサなどで横書きする。原稿の上下と左には約 3 cm, 右には校閲のために 8 cm 以上の余白をとる。1 行文字数は 24 字, 1 頁行数は 28 行以下とする。

## <論文原稿>

- 論文原稿の第 1 頁には、表題、著者名、所属、英文表題、英文著者名、別刷りの英文請求先、原稿の受領・掲載決定日(日付は空欄)を書く。第 2 頁には和文あるいは英文の摘要を書き、本文は第 3 頁から書く。原稿には必ず頁番号を入れる。
- 摘要は簡潔にまとめ、改行はしない。
- 本文の見出し・小見出しのランクは、番号なし(材料および方法、結果など), 1., 1), (1), の順とする。
- 動植物名はカタカナ, 病名は常用漢字またはひらがなとし, 動物・害虫名は日本応用動物昆虫学会編の農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版, 病名は日本植物病理学会編の日本植物病名目録に準拠する。数字は原則として算用数字を用いる。
- 見出しはゴシック体とする。本文は、和文については明朝体, 欧文については Century とする。ただし、図表中については特にフォントの指定はしない。欧文のイタリック体は実線の下線, ゴシック体は波線の下線, スモールキャピタルは二重の下線で示す。学名は本文の最初に出てきたときに書き, イタリック体とする。
- 単位の略記は次の例による。  
温度 °C; 重さ kg, g, mg,  $\mu\text{g}$  など; 長さ m, cm, mm,  $\mu\text{m}$ , nm; 面積  $\text{m}^2$ ,  $\text{cm}^2$ , a, ha, ; 容積 L, ml,  $\mu\text{l}$ ; 時間 ' (分), " (秒) (文章の中では分, 秒とする); 濃度 M, mM, N, %, ppm, ppb; 水素イオン濃度 pH; 酸化還元電位 Eh, rH。
- 本文中や引用文献等の欧文人名は次のようにする。  
例, Baker et al. (1975), Dyar の法則, .....
- 本文中で文献の引用は次のようにする。  
野口 (1982a, 1982b, 1983), Tanaka and Kashio (1977), 田中・井上 (1973), 田中ら (1974), Baker et al. (1975), (桑原ら, 1983; 池田ら, 1984; Smitsaert et al., 1985)
- 引用文献はアルファベット順, 暦年順に配列し, 次のように記載する。
  - 雑誌など逐次刊行物  
五味唯考・根本正康 (1984) 日植病報 50: 109-113.  
Nakamura, K. and K. Kawasaki (1977) Appl. Entomol. Zool. 12: 162-177.
  - 単行本  
大木 理 (2007) 植物病理学. 東京化学同人, 東京. 161pp.  
Lewis, T. (1973) Thrips, Their Biology and Economic Importance. Academic Press, London. 300pp.
  - 単行本中の分担執筆論文  
岡本 弘 (1962) 植物病理学実験法 (明日山秀文ら編). 日本植物防疫協会, 東京. pp. 301-334.  
Sanders, C. J. (1974) Pheromones (M. C. Birch ed.). North-Holland Pub. Co., Amsterdam. pp. 435-441.
  - 雑誌および単行本で著者が 3 名以上の場合は, 著者名は和文で――ら, 英文では―― et al. とする。
  - 引用文献の記述は, 日本語および日本語姓と名前の字間および氏名間の・の全角を除き, 括弧, ページ間のハイフン, コロン, カンマ, ピリオド, 英字, 数字等はすべて半角とし, 字間も半角とする。また, 括弧の前後および半角コロン, カンマ, ピリオド等の直後には半角スペースを挿入する。
- 図はできるだけ簡略にし, 必要最小限にとどめる。図は, あらかじめ 1/2 (面積で 1/4) 程度に縮小できるように描く。凡例は図内に書く。  
図の表題は図の下部に書き, 第○図.....のようにする。
- 表はできるだけ簡略にし, 原則として縦線は使用しない。  
表の表題は上部に第○表.....のようにする。表中の注釈は a), b)..... (上付) を用い, 表下は以下のようにする。

a).....

b).....

12. 図表は1枚を1葉に書き、図表の挿入位置を原稿の本文右余白に明確に示す。
13. 図を手書きする場合には、あらかじめ事務局に連絡し、その指示に従って作成する。
14. 審査を経て受理された原稿は、編集委員長の指示に従い所定の様式に再編集し、e-mailに添付して編集委員長へ送付する。

<講演要旨>

表題，著者名，（所属），本文の順に，それぞれ改行を入れて全体を600字程度にまとめる。